

SiteMinder

Domino 用 Web エージェント インストール ガ イド

12.52 SP1



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- SiteMinder
- CA IdentityMinder™ (旧 CA Identity Manager)
- eTrust SOA Security Manager (旧 CA SOA Security Manager)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

以下のドキュメントの更新は、本書の最新のリリース以降に行われたものです。

- [Web エージェントのアンインストール \(P. 67\)](#) - サポートされている JRE のインストールおよびシステム パスへの包含に関連する古いデータを削除しました。JRE は現在、ソフトウェアに含まれています。

目次

| | |
|---|-----------|
| 第 1 章: 準備 | 9 |
| このガイドの Domino サーバのみの手順 | 9 |
| SiteMinder エージェントのハードウェア要件 | 10 |
| Domino サーバ用準備ロードマップ | 11 |
| Domino 上の Web エージェントインストールを準備する方法 | 12 |
| プラットフォーム サポート マトリックスへのアクセス | 12 |
| UNIX オペレーティング環境用の Domino サーバの準備 | 13 |
| Linux オペレーティング環境用の Domino サーバ準備 | 14 |
| ポリシー サーバ要件 | 17 |
| | |
| 第 2 章: Windows 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定 | 21 |
| エージェントインストールとエージェント設定の比較 | 21 |
| Windows 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定する方法 | 22 |
| インストールプログラム用の情報を収集します。 | 22 |
| Windows 上でのインストールプログラムの実行 | 23 |
| 設定プログラムが Windows 上で必要とする情報の収集 | 24 |
| Domino Web エージェント DLL の追加 (Windows) | 27 |
| Windows 上での Web エージェント設定プログラムの実行 | 28 |
| Windows 上で後続のエージェントに対して無人またはサイレント インストールおよび設定プログラムを実行する | 30 |
| | |
| 第 3 章: UNIX/Linux 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定 | 33 |
| エージェントインストールとエージェント設定の比較 | 33 |
| UNIX/Linux 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定する方法 | 34 |
| インストール用の情報の収集 | 34 |
| UNIX/Linux 上でのインストールプログラムの実行 | 35 |
| 設定プログラムが UNIX または Linux で必要とする情報の収集 | 36 |
| Domino Web エージェントライブラリ ファイルの追加 (UNIX) | 39 |
| UNIX または Linux でのエージェント環境スクリプトの取得 | 40 |
| UNIX または Linux でのライブラリ パス変数の設定 | 41 |
| UNIX/Linux 上での Web エージェント設定プログラムの実行 | 42 |

| | |
|--|-----------|
| UNIX/Linux 上でエージェントに対して無人またはサイレント インストールおよび設定プログラムを実行する..... | 43 |
| 第 4 章: ダイナミックポリシー サーバクラスタ | 45 |
| ダイナミック ポリシー サーバクラスタへの Web エージェントの接続..... | 47 |
| 第 5 章: Web エージェントの起動と停止 | 49 |
| Web エージェントの有効化..... | 49 |
| Web エージェントの無効化..... | 50 |
| 第 6 章: Web エージェントを 12.52 SP1 にアップグレードする | 51 |
| Domino 用のエージェントアップグレードロードマップ..... | 52 |
| Domino 用のエージェントをアップグレードする方法..... | 53 |
| SiteMinder r6.x からのアップグレード処理..... | 54 |
| SiteMinder r12.0 からのアップグレード処理..... | 55 |
| Windows 上でエージェントをアップグレードするためにインストール ウィザードを実行する..... | 55 |
| UNIX/Linux 上でエージェントをアップグレードするためにインストール ウィザードを実行する..... | 57 |
| Windows 上のアップグレードされたエージェントへ Web エージェント Domino DLL ファイルの追加..... | 58 |
| UNIX/Linux 上のアップグレードされたエージェントへ Web エージェント Domino ライブラリファイルの追加..... | 60 |
| UNIX/Linux のアップグレードの後にエージェント環境スクリプトを取得..... | 61 |
| UNIX/Linux 上でアップグレードしたエージェントを設定する前にライブラリ パス変数を設定する..... | 62 |
| Windows 上でアップグレードしたエージェントを設定する..... | 63 |
| UNIX/Linux 上でアップグレードしたエージェントを設定する..... | 64 |
| 第 7 章: Web エージェントのアンインストール | 67 |
| Web エージェントのアンインストールに関する注意事項..... | 67 |
| Windows オペレーティング環境からの Web エージェントのアンインストール..... | 68 |
| UNIX からの Domino エージェントのアンインストール..... | 70 |
| 第 8 章: トラブルシューティング | 73 |
| Domino Web エージェントが有効になっていないのに Web サーバが開始する..... | 73 |
| ローカル設定モードの使用時に Domino エージェントが初期化できない..... | 74 |
| 英語以外の入力文字にジャンク文字が含まれる..... | 74 |

付録 A: ワークシート

75

| | |
|------------------------------------|----|
| エージェントインストールワークシート | 75 |
| Domino 用の Web エージェント設定ワークシート | 75 |

第 1 章: 準備

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[このガイドの Domino サーバのみの手順 \(P. 9\)](#)

[SiteMinder エージェントのハードウェア要件 \(P. 10\)](#)

[Domino サーバ用準備ロードマップ \(P. 11\)](#)

[Domino 上の Web エージェントインストールを準備する方法 \(P. 12\)](#)

このガイドの Domino サーバのみの手順

このガイドには、Domino サーバ上の SiteMinder エージェントをインストールまたは設定するための手順のみが含まれています。

SiteMinder エージェントを他のタイプの Web サーバまたはオペレーティング環境にインストールまたは設定するには、以下のいずれかのガイドを参照してください。

- *Apache* サーバ用 Web エージェント インストール ガイド。
- *IIS* 用 Web エージェント インストール ガイド。
- *Oracle iPlanet* 用 Web エージェント インストール ガイド。

SiteMinder エージェントのハードウェア要件

SiteMinder エージェントをホストするコンピュータには以下のハードウェアが必要です。

Windows オペレーティング環境要件

Windows オペレーティング環境で稼働するエージェントは以下のハードウェアを必要とします。

- CPU : x86 または x64
- メモリ : 2 GB のシステム RAM。
- 使用可能なディスク領域 :
 - インストール場所に 2 GB の空きディスク領域。
 - 一時的な場所に .5 GB の空きディスク領域。

UNIX オペレーティング環境要件

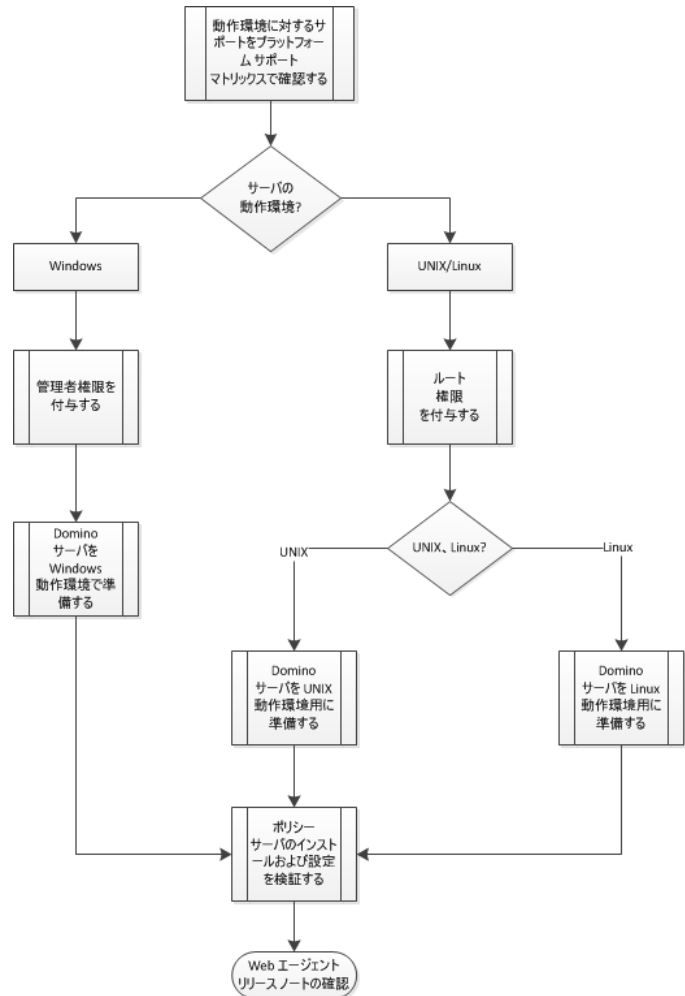
UNIX オペレーティング環境で稼働するエージェントは以下のハードウェアを必要とします。

- CPU :
 - Solaris オペレーティング環境 : SPARC
 - Red Hat オペレーティング環境 : x86 または x64
- メモリ : 2 GB のシステム RAM。
- 使用可能なディスク領域 :
 - インストール場所に 2 GB の空きディスク領域。
 - /tmp 内に .5 GB の空きディスク領域。

注: エージェントの日常運用には、/tmp 内に 10 MB の空きディスク領域が必要です。エージェントは、/tmp の下にファイルおよび名前付きパイプを作成します。これらのファイルおよびパイプが作成されたパスは変更できません。

Domino サーバ用準備ロードマップ

以下の図は、SiteMinder エージェントをインストールする前に Web サーバを準備する方法を示しています。



Domino 上の Web エージェント インストールを準備する方法

Domino サーバ上の SiteMinder エージェント インストールを準備するには、以下の手順を使用します。

1. プラットフォーム サポート マトリックスを見つけます。インストールする SiteMinder エージェントのバージョンを Web サーバがサポートしていることを確認します。
2. Web サーバに対して以下のいずれかのタイプの権限を持つアカウントがあることを確認します。
 - 管理者権限 (Windows オペレーティング環境)
 - ルート権限 (UNIX または Linux オペレーティング環境)
3. 以下のいずれかのリストを使用して、適切なエージェント要件を設定します。
 - UNIX オペレーティング環境用の Domino サーバ準備。
 - Linux オペレーティング環境用の Domino サーバ準備。
4. ポリシー サーバがインストールおよび設定されていることを確認します。
5. 「Web エージェント リリース ノート」の既知の問題セクションを確認します。

プラットフォーム サポート マトリックスへのアクセス

プラットフォーム サポート マトリックスを使用して、オペレーティング環境および他の必要なサードパーティ コンポーネントがサポートされていることを確認します。

次の手順に従ってください:

1. CA サポート サイトに移動します。
2. [Product Pages] をクリックします。
3. 製品名を入力し、Enter キーを押します。

4. ポピュラーなリンクを開き、 [Informational Documentation Index] をクリックします。
5. [Platform Support Matrices] をクリックします。

注: 最新の JDK および JRE バージョンは、 [Oracle Developer Network](#) でダウンロードできます。

技術パートナーおよび CA によって検証済みの製品

パートナーおよびパートナーによって検証済み製品の最新[リスト](#)

UNIX オペレーティング環境用の Domino サーバの準備

UNIX オペレーティング環境上で実行される Domino サーバは、 SiteMinder エージェントをインストールする前に以下の準備を必要とします。

1. [display 変数を設定する](#) (P. 13)。
2. 適切な [Solaris パッチ](#) (P. 14) がオペレーティング環境にインストールされていることを確認します。

UNIX 上で SiteMinder エージェント インストールに DISPLAY を設定する

Telnet や Exceed 端末などのリモート端末から UNIX システムに SiteMinder エージェントをインストールする場合は、 DISPLAY 変数がローカルシステムに設定されていることを確認してください。たとえば、マシンが 111.11.1.12 である場合は、以下のように変数を設定します。

```
DISPLAY=111.11.1.12: 0.0
export DISPLAY
```

注: また、コンソールモードインストールを使用して、エージェントをインストールすることもできます。これには X ウィンドウ表示モードは必要ありません。

必要とされる Solaris パッチ

Solaris コンピュータに SiteMinder エージェントをインストールする前に、以下のパッチをインストールします。

Solaris 9

パッチ 111711-16 が必要です。

Solaris 10

パッチ 119963-08 が必要です。

インストールされたパッチバージョンは、ルート ユーザとしてログインして以下のコマンドを実行することにより確認できます。

```
showrev -p | grep patch_id
```

Solaris パッチを検索するには、「Oracle Solution Center」に移動します。

Linux オペレーティング環境用の Domino サーバ準備

Linux オペレーティング環境上で実行される Domino サーバは、SiteMinder エージェントをインストールする前に以下の準備を必要とします。

1. [必要なパッチがインストールされていることを確認します。](#) (P. 14)
2. 必要なライブラリがインストールされていることを確認します。

必要とされる Linux パッチ

以下の Linux パッチが必要です。

64 ビット Linux システムで実行する Web エージェント用

- Binutils 2.17
- GCC 4.1.0

必要とされる Linux ライブラリ

Linux オペレーティング環境上で動作するコンポーネントには、特定のライブラリ ファイルが必要です。正しいライブラリをインストールしないと、以下のエラーを引き起こす場合があります。

```
java.lang.UnsatisfiedLinkError
```

このコンポーネントの Linux バージョンをインストール、設定、またはアップグレードする場合は、ホスト システム上で以下のパッケージが必要になります。

Red Hat 5.x

- `compat-gcc-34-c++-3.4.6-patch_version.i386`
- `libstdc++-4.x.x-x.el5.i686.rpm`
- `libidn.so.11.rpm`
- `ncurses`

Red Hat 6.x

- libstdc++-4.x.x-x.el6.i686.rpm
- libidn-1.18-2.el6.i686
- libXext.i686.rpm
- libXrender.i686.rpm
- linXtst.i686.rpm
- libidn.so.11.rpm
- ncurses

Red Hat 6.x (64 ビット) の場合はさらに以下 :

注: 64 ビット Red Hat 6.x に必要な RPM パッケージはすべて、32 ビットの
パッケージです。

- libXau-1.0.5-1.el6.i686.rpm
- libxcb-1.5-1.el6.i686.rpm
- compat-db42-4.2.52-15.el6.i686.rpm
- compat-db43-4.3.29-15.el6.i686.rpm
- libX11-1.3-2.el6.i686.rpm
- libXrender-0.9.5-1.el6.i686.rpm
- libexpat.so.1 (expat-2.0.1-11.el6_2.i686.rpm により提供)
- libfreetype.so.6 (freetype-2.3.11-6.el6_2.9.i686.rpm により提供)
- libfontconfig.so.1 (fontconfig-2.8.0-3.el6.i686.rpm により提供)
- libICE-1.0.6-1.el6.i686.rpm
- libuuid-2.17.2-12.7.el6.i686.rpm
- libSM-1.1.0-7.1.el6.i686.rpm
- libXext-1.1-3.el6.i686.rpm
- compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.i686.rpm
- compat-db-4.6.21-15.el6.i686.rpm
- libXi-1.3-3.el6.i686.rpm
- libXtst-1.0.99.2-3.el6.i686.rpm
- libXft-2.1.13-4.1.el6.i686.rpm
- libXt-1.0.7-1.el6.i686.rpm

- libXp-1.0.0-15.1.el6.i686.rpm
- libstdc++.i686.rpm
- compat-libtermcap.rpm
- libidn.i686.rpm
- ncurses

ポリシー サーバ要件

ポリシー サーバが以下の要件を満たしていることを確認します。

- インストールされ、設定されています。
- エージェントのインストールを計画するコンピュータと通信できます。

注: 詳細については、ポリシー サーバドキュメントを参照してください。

SiteMinder エージェントをインストールおよび設定するには、ポリシー サーバは少なくとも以下のアイテムを必要とします。

- **トラステッドホストを登録する権限がある SiteMinder 管理者。**
トラステッドホストとは、1 つ以上の SiteMinder エージェントがインストールされ、ポリシー サーバに登録されているクライアント コンピュータです。SiteMinder 管理者には、トラステッドホストをポリシー サーバに登録する権限が必要です。トラステッドホストを登録すると、ポリシー サーバ上に一意のトラステッドホスト名オブジェクトが作成されます。
- **エージェント識別情報**
エージェント識別情報は、ポリシー サーバとエージェントをホストする Web サーバインスタンスの名前または IP アドレスとの間のマッピングを確立します。管理 UI 内にエージェント オブジェクトからのエージェント ID を定義します。そのエージェント ID に名前を割り当てて、Web エージェントとしてエージェントタイプを指定します。
- **ホスト設定オブジェクト (HCO)**
ポリシー サーバ上のホスト設定オブジェクトは、初期接続がなされた後、エージェントとポリシー サーバとの間の通信を定義します。初回接続では、SmHost.conf ファイル内のパラメータを使用します。

- エージェント設定オブジェクト (ACO)

このオブジェクトには、エージェント設定を定義するパラメータが含まれています。すべての SiteMinder エージェントは、ACO で定義される以下の設定パラメータのうち少なくとも 1 つを必要とします。

AgentName

Web エージェントの ID を定義します。この ID は、エージェントをホストしている各 Web サーバインスタンスの名前と IP アドレスまたは FQDN をリンクします。

以下のイベントのいずれか発生した場合は、DefaultAgentName の値が AgentName パラメータの代わりに使用されます。

- AgentName パラメータが無効。
- AgentName パラメータの値が空。
- AgentName パラメータの値が既存のエージェント オブジェクトに一致しない。

注: このパラメータは複数の値を持つことができます。エージェント設定オブジェクトでこのパラメータを設定する場合は、複数値オプションを使用します。ローカル設定ファイルについては、ファイル内の個別の行に各値を追加します。

デフォルト: デフォルトなし

制限: 複数の値が許可されていますが、各 AgentName パラメータは 4,000 文字に制限されています。文字をパラメータ名に追加することにより、必要に応じて追加の AgentName パラメータを作成します。たとえば、AgentName、AgentName1、AgentName2 などを作成します。

制限: 32-127 の範囲内に 7 ビット ASCII 文字が含まれている必要があります、1 つ以上の印刷可能文字が含まれている必要があります。アンパサンド (&) およびアスタリスク (*) 文字は含めることができません。この値は大文字と小文字が区別されます。たとえば、MyAgent と myagent という名前は、同じように処理されます。

例: myagent1,192.168.0.0 (IPv4)

例: myagent2, 2001:DB8::/32 (IPv6)

例: myagent,www.example.com

例 (複数の AgentName パラメータ): AgentName1、AgentName2、AgentName3。各 AgentName パラメータの値は、4,000 文字に制限されています。

DefaultAgentName

要求を処理するためにエージェントが使用する名前を定義します。エージェント名値が **AgentName** パラメータに存在しないときは、**DefaultAgentName** の値が IP アドレスまたはインターフェース上の要求に使用されます。

仮想サーバを使用している場合は、**DefaultAgentName** を使用することにより **SiteMinder** 環境を迅速にセットアップできます。**DefaultAgentName** を使用することは、各仮想サーバに対して個別のエージェントを定義する必要がないことを意味します。

重要: **DefaultAgentName** パラメータの値を指定しない場合、**AgentName** パラメータの値にはそのリスト内のすべてのエージェント ID が必要です。そうでない場合、ポリシー サーバはエージェントにポリシーを結び付けることができません。

デフォルト: デフォルトなし

制限: 使用できる値は 1 つのみです。複数の値の使用は禁止されています。

制限: 32-127 の範囲内に 7 ビット ASCII 文字が含まれている必要があります、1 つ以上の印刷可能文字が含まれている必要があります。アンパサンド (&) およびアスタリスク (*) 文字は含めることができません。この値は大文字と小文字が区別されます。たとえば、**MyAgent** と **myagent** という名前は、同じように処理されます。

Domino 用の SiteMinder エージェントも以下のパラメータに対する値を必要とします。

DominoDefaultUser

Domino Web エージェントが SiteMinder が事前に Domino サーバへの別のディレクトリに対して認証したユーザを識別する名前を指定します。

重要: このパラメータがローカル設定ファイルに格納される場合は、暗号化する必要があります。このパラメータを暗号化するには、**encryptkey** ツールを使用します。パラメータを変更する場合は、ローカル設定ファイルを直接編集しないでください。

デフォルト：デフォルトなし

DominoSuperUser

Domino サーバ上のすべてのリソースにアクセスできるユーザを指定します。SiteMinder に正常にログインしたすべてのユーザが、Domino SuperUser として Domino のサーバにログインされることを確認します。

この値は暗号化できます。

このパラメータは以下のパラメータに影響します。

- SkipDominoAuth

デフォルト：デフォルトなし

第 2 章: Windows 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[エージェントインストールとエージェント設定の比較 \(P. 21\)](#)

[Windows 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定する方法 \(P. 22\)](#)

エージェントインストールとエージェント設定の比較

インストールと設定の概念は、SiteMinder エージェントの説明に使用された場合に特定の意味を持ちます。

インストールは SiteMinder エージェント ソフトウェアをコンピュータ システムにインストールすることを意味します。たとえば、エージェントをインストールするとディレクトリが作成され、SiteMinder エージェント ソフトウェアおよびその他の設定がコンピュータにコピーされます。

設定はインストールの後に発生し、コンピュータ上の特定の Web サーバに対する SiteMinder エージェント ソフトウェア準備のアクションを意味します。この準備には SiteMinder ポリシー サーバにエージェントを登録し、コンピュータにインストールされる Web サーバ用のランタイム サーバインスタンスを作成することが含まれます。

エージェントを最初の Web サーバにインストールおよび設定するには、ウィザードベースのインストールおよび設定プログラムを使用します。ウィザードベースのプログラムは .properties ファイルを作成します。

.properties ファイルおよび対応する実行可能ファイルを使用して、エージェントを追加の Web サーバにサイレントにインストールまたは設定します。

Windows 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定する方法

Domino 用の SiteMinder エージェントのインストールおよび設定は、いくつかの別個の手順を必要とします。Domino 用のエージェントをインストールおよび設定するには、以下のプロセスを使用します。

1. [インストールプログラム用の情報を収集する](#) (P. 22)。
2. [ウィザードベースのインストールプログラムを実行する](#) (P. 23)。
3. 設定プログラムが必要とする情報を収集する。
4. Domino エージェント DLL ファイルを追加する。
5. [設定プログラムを実行する](#) (P. 28)。
6. (オプション) [追加の Domino サーバ上の Domino 用のエージェントをサイレントインストールし設定する](#) (P. 30)。
7. (オプション) 以下のいずれかの手順を実行する。
 - [CGI ディレクトリおよび CGI URL パス設定](#) (P. 31)を設定する。
 - [HTML フォーム認証を有効にするための別名設定](#) (P. 32)を設定する。

インストールプログラム用の情報を収集します。

エージェントのインストールプログラムを実行する前に、Web サーバに関する以下の情報を収集します。

インストール ディレクトリ

Web サーバ上のエージェント バイナリ ファイルの場所を指定します。`web_agent_home` 変数はこの場所に設定されます。

制限： この製品では、パス内の最下部のディレクトリに「webagent」という名前を付ける必要があります。

Windows 上でのインストールプログラムの実行

エージェントのインストールプログラムは **Windows** オペレーティング環境を使用して、一度に 1 台のコンピュータにエージェントをインストールします。このインストールプログラムはウィザードまたはコンソールモードで実行できます。ウィザードおよびコンソールベースのインストールプログラムは、同じ設定の無人またはサイレントメソッドを使用して、後続のインストールおよび設定のための **.properties** ファイルも作成します。

たとえば、環境内のエージェントが同じ **Web** サーババージョン、インストールディレクトリ、エージェント設定オブジェクト、およびポリシーサーバを使用すると仮定します。最初のインストールにはインストールウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムを使用します。その後、ウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムが作成した **.properties** ファイルを有するインストールプログラムを実行するために独自のスクリプトを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. **Web** サーバ上の一時ディレクトリに **Web** エージェントインストール実行可能ファイルをコピーします。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - ウィザードベースのインストールでは、インストール実行可能ファイルを右クリックし、次に、[管理者として実行] を選択します。
 - コンソールベースのインストールでは、コマンドラインウィンドウを開き、以下の例に示すとおり実行可能ファイルを実行します。

```
executable_file_name.exe -i console
```
3. 事前に収集した情報を使用してインストールを完了します。

設定プログラムが Windows 上で必要とする情報の収集

Domino サーバ上でエージェント用の設定プログラムを実行する前に、以下の情報を収集します。

ホストの登録

トラステッドホストを登録するかどうかを示します。この登録は、Web サーバ上のポリシーサーバおよび `SmHost.conf` ファイルでトラステッドホストオブジェクトを作成します。エージェントは、起動時にポリシーサーバへの初期接続を行うためにこの情報を使用します。トラステッドホストとして各エージェントインスタンスを 1 回のみ登録します。

デフォルト：はい

制限：はい、いいえ

管理者ユーザ名

ポリシーサーバですでに定義されている管理者権限を持った SiteMinder ユーザの名前を指定します。このユーザアカウントは、トラステッドホストを登録する権限を必要とします。

管理者パスワード

ポリシーサーバですでに定義されている管理者ユーザ名用にパスワードを指定します。

管理者パスワードの確認

[管理者パスワード] フィールドに入力したパスワードを繰り返します。この値は、ポリシーサーバですでに定義されている管理者ユーザ名用のパスワードを確認します。

トラステッドホストオブジェクト名

登録するトラステッドホスト用の任意の名前を指定します。このトラステッドホストオブジェクトがポリシーサーバ上に格納されます。

ホスト設定オブジェクト

SiteMinder ポリシーサーバですでに定義されている [ホスト設定オブジェクト] の名前を指定します。エージェントがポリシーサーバ (`SmHost.conf` ファイル設定を使用して) に最初接続した後、後続の接続は [ホスト設定オブジェクト] からの設定を使用します。

ポリシー サーバ IP アドレス

エージェントが起動時に試みるポリシー サーバのインターネット プロトコルアドレスを指定します。ポリシー サーバがファイアウォールの内側にある場合は、ポート番号も指定します。

単一の仮想 IP アドレス (VIP) によってユーザの環境でポリシー サーバを公開するようにハードウェア ロードバランサが設定されている場合は、VIP を入力します。

例：(IPV4) 192.168.1.105

例：(ポート番号がある IPV4) 192.168.1.105:44443

例：(IPV6) 2001:DB8::/32

例：(IPV6) [2001:DB8::/32]:44443

FIPS モード設定

以下のいずれかのアルゴリズムを指定します。

FIPS 互換性/AES 互換性

機密データを暗号化するために以前のバージョンの SiteMinder に存在していたアルゴリズムを使用し、以前のバージョンの SiteMinder と互換性があります。組織が FIPS 準拠のアルゴリズムの使用を必要としない場合は、このオプションを使用します。

FIPS 移行/AES 移行

FIPS 互換性モードから FIPS のみのモードへの移行を許可します。FIPS 移行モードでは、環境は、FIPS 準拠のアルゴリズムを使用して既存の機密データを再暗号化するときに、既存の SiteMinder 暗号化アルゴリズムを引き続き使用します。

FIPS のみ/AES のみ

FIPS 準拠アルゴリズムのみを使用して、SiteMinder 環境で機密データを暗号化します。この設定は、SiteMinder の旧バージョンと相互運用されず、また下位互換性もありません。

デフォルト：FIPS 互換/AES 互換

注：FIPS は、AES (Advanced Encryption Standard : 高度暗号化標準) に適合する暗号モジュールを信用する米国政府のコンピュータ セキュリティ標準です。

重要： SiteMinder エージェントおよび SiteMinder ポリシー サーバの両方に互換性のある FIPS/AES モード (または互換モードの組み合わせ) を使用します。

名前

ポリシー サーバへの初期接続を行うために Web エージェントが使用する設定が含まれている `SmHost.conf` ファイルの名前を指定します。

デフォルト : `SmHost.conf`

場所

`SmHost.conf` ファイルが格納されているディレクトリを指定します。

デフォルト : `web_agent_home¥config`

共有秘密キーのロールオーバーの有効化

このチェック ボックスをオンにして、ポリシー サーバが Web エージェントへの通信を暗号化するのに使用する共有秘密キーを変更します。

iNotes ファイル

Domino Web サーバ上で実行される Web エージェントの iNotes ファイルの場所を指定します。

サーバの選択

設定プログラムがコンピュータ上で検索する Web サーバインスタンスを示します。設定したいインスタンスのチェック ボックスをオンにします。SiteMinder 保護を解除したいインスタンスのチェック ボックスをオフにします。

エージェント設定オブジェクト名

ポリシー サーバ上ですでに定義されている、エージェント設定オブジェクト (ACO) の名前を指定します。

デフォルト : `AgentObj`

高度な認証方式のダイアログ

以前に選択した Web サーバインスタンス用の高度な認証方式を指定します。

Domino Web エージェント DLL の追加 (Windows)

Domino Web エージェントが正常に動作するには、DOMINOWebAgent.dll ファイルをフィルタ DLL に追加します。Web エージェント DLL は、リスト内の最初の DLL である必要があります。

次の手順に従ってください:

1. Lotus Notes を開きます。
2. [File] - [Database] - [Open] を選択します。
3. [Server] フィールドで、Web エージェントをインストールした Domino Server を選択します。
4. [Database] スクロールボックスで、サーバのアドレス帳を選択します。
[Filename] フィールドで names.nsf が表示されることを確認します。
5. [開く] をクリックします。
6. 左ペインで、[Server] フォルダを展開し、[All Server Documents] アイコンをダブルクリックします。
7. サーバを選択し、[Edit Server] をクリックします。
8. [Internet Protocols] タブを選択します。
9. ウィンドウの DSAPI セクションで、[DSAPI filter file names] フィールドを検索し、Domino Web エージェント DLL への完全パスを入力します。Domino Web エージェント DLL がリストの最初に表示されることを確認します。この DLL ファイルのデフォルトの場所は以下の例で示すとおりです。

```
web_agent_home¥bin¥DOMINOWebAgent.dll
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (Windows32 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent

デフォルト (Windows64 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent¥win64

デフォルト (64 ビット システム [Wow64] 上で作動する Windows32 ビット アプリケーション) : C:¥Program Files (x86)¥webagent¥win32

10. [Save and Close] をクリックします。
11. Web サーバを再起動します。場合によって、再起動が必要になることがあります。

Windows 上での Web エージェント設定プログラムの実行

エージェント設定用の情報を収集した後、エージェント設定プログラムを実行します。このプログラムは、コンピュータ上で実行される Web サーバ用のエージェント ランタイム インスタンスを作成します。

この設定プログラムは、選択するオプションに応じてウィザードまたはコンソールベースになります。ウィザードまたはコンソール モード内の設定プログラムを 1 回実行すると、プロパティファイルが作成されます。同じオペレーティング環境を持った他のコンピュータ上で無人設定を今後実行するためにプロパティファイルを使用します。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバで以下のディレクトリを開きます。

`web_agent_home¥install_config_info`

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (Windows32 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent

デフォルト (Windows64 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent¥win64

デフォルト (64 ビット システム [Wow64] 上で作動する Windows32 ビット アプリケーション) : C:¥Program Files (x86)¥webagent¥win32

2. 以下のいずれかのメソッドを使用します。
 - GUI ベースの設定については、手順 3 に移動します。
 - コンソールベースの設定については、手順 5 に移動します。
3. 以下の実行可能ファイルを右クリックし、次に、[管理者として実行] を選択します。

`ca-wa-config.exe`

4. 手順 8 に進みます。
5. 管理者権限を使用してコマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
6. 以前にリスト表示された実行可能ファイルに移動し、以下のスイッチで実行します。

`-i console`

7. 手順 8 に進みます。
8. 設定プログラムで示されるプロンプトに従います。エージェント設定ワークシートからリクエストされた値を提供します。

エージェントランタイムインスタンスが Web サーバに対して作成されます。

Windows 上で後続のエージェントに対して無人またはサイレント インストールおよび設定プログラムを実行する

無人またはサイレント インストール オプションは、インストールおよび設定プロセスを自動化するのに役立ちます。同一の設定を持つ多くのエージェントを使用する大型の SiteMinder 環境がある場合、このメソッドによって時間を節約できます。

たとえば、環境内のエージェントが同じ Web サーババージョン、インストールディレクトリ、エージェント設定オブジェクト、およびポリシーサーバを使用すると仮定します。最初のインストールにはインストールウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムを使用します。その後、ウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムが作成した .properties ファイルを有するインストールプログラムを実行するために独自のスクリプトを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. 最初の Web サーバ上で以下のウィザードを実行します (表示されるおりの順序)。
 - a. SiteMinderWeb エージェント インストール ウィザード。
 - b. SiteMinderWeb エージェント設定ウィザード。
2. 最初の Web サーバで以下のファイルを見つけます。

`web_agent_home¥install_config_info¥ca-wa-installer.properties`

注: パスにスペースが含まれる場合は、引用符で囲んでください。

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (Windows32 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent

デフォルト (Windows64 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent¥win64

デフォルト (64 ビット システム [Wow64] 上で作動する Windows32 ビット アプリケーション) : C:¥Program Files (x86)¥webagent¥win32

3. 環境内の他の Web サーバ上で以下の各手順を実行します。

注: このプロセスを自動化するには、カスタマイズした独自のスクリプトを作成し、システム上でこれらのファイルを実行します。使用するスクリプト言語は任意です。

- a. 後続の Web サーバ上で一時ディレクトリを作成します。
 - b. 最初の Web サーバ（手順 1 および 2）から後続の Web サーバ上の一時ディレクトリに以下のファイルをコピーします。
 - SiteMinderWeb エージェント インストール実行可能ファイル。
 - SiteMinderca-wa-installer.properties ファイル。
 - c. 一時ディレクトリ内で管理者権限を使用してコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
 - d. 以下のコマンドを実行します。

```
agent_executable -f properties_file -i silent
```

後続のサーバに SiteMinder エージェントがサイレントにインストールおよび設定されます。
 - e. （オプション）後続の Web サーバから一時ディレクトリを削除します。
4. ca-wa-installer.properties ファイルの設定で指定される構成を使用する SiteMinder 環境内の各追加の Web サーバに対して手順 3 を繰り返します。

Windows 動作環境での CGI ディレクトリおよび CGI URL パス設定の設定(オプション)

Domino Web エージェントに適切な cgi-bin (ScriptAlias) 設定を設定し、Domino 管理者のサーバ設定用の [Internet Protocols] タブに移動し、以下の設定を設定します。

- CGI ディレクトリ : domino¥html¥cgi-bin
- CGI URL パス : /cgi-bin

HTML フォーム認証方式を有効にするための別名設定の設定(オプション)

Domino Web エージェントを設定して HTML フォーム認証方式をサポートするには、以下のタスクを実行します。

1. Domino ドキュメントルート (¥domino¥html¥) ディレクトリに「siteminderagent」という名前のサブディレクトリを作成します。
2. 手順 1 に作成した siteminderagent ディレクトリに *agent_home¥samples* のサブディレクトリをすべてコピーします。
agent_home
SiteMinder Web エージェントのインストールパスを指定します。
3. X.509 クライアント証明書および HTML フォーム認証方式をサポートするために、手順 1 で作成した siteminderagent ディレクトリに「certoptional」という名前のディレクトリを追加で作成し、さらに、そこに *agent_home¥samples* のすべてのサブディレクトリをコピーします。

第 3 章: UNIX/Linux 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[エージェントインストールとエージェント設定の比較 \(P. 33\)](#)

[UNIX/Linux 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定する方法 \(P. 34\)](#)

エージェントインストールとエージェント設定の比較

インストールと設定の概念は、SiteMinder エージェントの説明に使用された場合に特定の意味を持ちます。

インストールは SiteMinder エージェント ソフトウェアをコンピュータ システムにインストールすることを意味します。たとえば、エージェントをインストールするとディレクトリが作成され、SiteMinder エージェント ソフトウェアおよびその他の設定がコンピュータにコピーされます。

設定はインストールの後に発生し、コンピュータ上の特定の Web サーバに対する SiteMinder エージェント ソフトウェア準備のアクションを意味します。この準備には SiteMinder ポリシー サーバにエージェントを登録し、コンピュータにインストールされる Web サーバ用のランタイム サーバインスタンスを作成することが含まれます。

エージェントを最初の Web サーバにインストールおよび設定するには、ウィザードベースのインストールおよび設定プログラムを使用します。ウィザードベースのプログラムは `.properties` ファイルを作成します。

`.properties` ファイルおよび対応する実行可能ファイルを使用して、エージェントを追加の Web サーバにサイレントにインストールまたは設定します。

UNIX/Linux 上の Domino 用のエージェントをインストールおよび設定する方法

Domino 用の SiteMinder エージェントのインストールおよび設定は、いくつかの別個の手順を必要とします。Domino 用のエージェントをインストールおよび設定するには、以下のプロセスを使用します。

1. [インストールプログラム用の情報を収集する](#) (P. 34)。
2. [ウィザードベースのインストールプログラムを実行する](#) (P. 35)。
3. [設定プログラムが必要とする情報を収集する](#) (P. 36)。
4. [Domino エージェント ライブラリ ファイルを追加する](#) (P. 39)。
5. [エージェント環境スクリプトを用意する](#) (P. 40)。
6. [オペレーティング環境用のライブラリ パス変数を設定する](#) (P. 41)。
7. [設定プログラムを実行する](#) (P. 42)。
8. (オプション) [追加の Domino サーバ上の Domino 用のエージェントをサイレントインストールし設定する](#) (P. 43)。
9. (オプション) [HTML フォーム認証を有効にするための別名設定を設定する](#) (P. 44)。

インストール用の情報の収集

エージェントのインストールプログラムを実行する前に、Web サーバに関する以下の情報を収集します。

インストール ディレクトリ

Web サーバ上のエージェント バイナリ ファイルの場所を指定します。`web_agent_home` 変数はこの場所に設定されます。

制限： この製品では、パス内の最下部のディレクトリに「webagent」という名前を付ける必要があります。

UNIX/Linux 上でのインストールプログラムの実行

SiteMinder エージェント用のインストールプログラムは、UNIX または Linux オペレーティング環境を使用して、エージェントを一度に 1 台のコンピュータにインストールします。このインストールプログラムはウィザードまたはコンソールモードで実行できます。ウィザードおよびコンソールベースのインストールプログラムは、同じ設定の無人またはサイレントメソッドを使用して、後続のインストールおよび設定に対する `.properties` ファイルも作成します。

たとえば、環境内のエージェントが同じ Web サーババージョン、インストールディレクトリ、エージェント設定オブジェクト、およびポリシーサーバを使用すると仮定します。最初のインストールにはインストールウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムを使用します。その後、ウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムが作成した `.properties` ファイルを有するインストールプログラムを実行するために独自のスクリプトを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバ上の一時ディレクトリに SiteMinder エージェントインストール実行可能ファイルをコピーします。
2. root ユーザとしてログインします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - ウィザードベースのインストールについては、インストール実行可能ファイルを実行します。
 - コンソールベースのインストールでは、コマンドラインウィンドウを開いて実行可能ファイルを以下の例で示されるとおりに実行します。

```
executable_file_name.exe -i console
```
4. インストールプログラムを完了するためにエージェントインストールワークシートからの情報を使用します。

設定プログラムが UNIX または Linux で必要とする情報の収集

Domino サーバ上でエージェント用の設定プログラムを実行する前に、以下の情報を収集します。

ホストの登録

トラステッドホストを登録するかどうかを示します。この登録は、Web サーバ上のポリシーサーバおよび `SmHost.conf` ファイルでトラステッドホストオブジェクトを作成します。エージェントは、起動時にポリシーサーバへの初期接続を行うためにこの情報を使用します。トラステッドホストとして各エージェントインスタンスを1回のみ登録します。

デフォルト：はい

制限：はい、いいえ

管理者ユーザ名

ポリシーサーバですでに定義されている管理者権限を持った SiteMinder ユーザの名前を指定します。このユーザアカウントは、トラステッドホストを登録する権限を必要とします。

管理者パスワード

ポリシーサーバですでに定義されている管理者ユーザ名用にパスワードを指定します。

管理者パスワードの確認

[管理者パスワード] フィールドに入力したパスワードを繰り返します。この値は、ポリシーサーバですでに定義されている管理者ユーザ名用のパスワードを確認します。

トラステッドホストオブジェクト名

登録するトラステッドホスト用の任意の名前を指定します。このトラステッドホストオブジェクトがポリシーサーバ上に格納されます。

ホスト設定オブジェクト

SiteMinder ポリシーサーバですでに定義されている [ホスト設定オブジェクト] の名前を指定します。エージェントがポリシーサーバ (SmHost.conf ファイル設定を使用して) に最初接続した後、後続の接続は [ホスト設定オブジェクト] からの設定を使用します。

ポリシー サーバ IP アドレス

エージェントが起動時に試みるポリシー サーバのインターネット プロトコルアドレスを指定します。ポリシー サーバがファイアウォールの内側にある場合は、ポート番号も指定します。

単一の仮想 IP アドレス (VIP) によってユーザの環境でポリシー サーバを公開するようにハードウェア ロードバランサが設定されている場合は、VIP を入力します。

例：(IPV4) 192.168.1.105

例：(ポート番号がある IPV4) 192.168.1.105:44443

例：(IPV6) 2001:DB8::/32

例：(IPV6) [2001:DB8::/32]:44443

FIPS モード設定

以下のいずれかのアルゴリズムを指定します。

FIPS 互換性/AES 互換性

機密データを暗号化するために以前のバージョンの SiteMinder に存在していたアルゴリズムを使用し、以前のバージョンの SiteMinder と互換性があります。組織が FIPS 準拠のアルゴリズムの使用を必要としない場合は、このオプションを使用します。

FIPS 移行/AES 移行

FIPS 互換性モードから FIPS のみのモードへの移行を許可します。FIPS 移行モードでは、環境は、FIPS 準拠のアルゴリズムを使用して既存の機密データを再暗号化するとき、既存の SiteMinder 暗号化アルゴリズムを引き続き使用します。

FIPS のみ/AES のみ

FIPS 準拠アルゴリズムのみを使用して、SiteMinder 環境で機密データを暗号化します。この設定は、SiteMinder の旧バージョンと相互運用されず、また下位互換性もありません。

デフォルト：FIPS 互換/AES 互換

注：FIPS は、AES (Advanced Encryption Standard : 高度暗号化標準) に適合する暗号モジュールを信用する米国政府のコンピュータ セキュリティ標準です。

重要： SiteMinder エージェントおよび SiteMinder ポリシー サーバの両方に互換性のある FIPS/AES モード (または互換モードの組み合わせ) を使用します。

名前

ポリシー サーバへの初期接続を行うために Web エージェントが使用する設定が含まれている `SmHost.conf` ファイルの名前を指定します。

デフォルト : `SmHost.conf`

場所

`SmHost.conf` ファイルが格納されているディレクトリを指定します。

デフォルト : `web_agent_home¥config`

共有秘密キーのロールオーバーの有効化

このチェック ボックスをオンにして、ポリシー サーバが Web エージェントへの通信を暗号化するのに使用する共有秘密キーを変更します。

iNotes ファイル

Domino Web サーバ上で実行される Web エージェントの iNotes ファイルの場所を指定します。

サーバの選択

設定プログラムがコンピュータ上で検索する Web サーバインスタンスを示します。設定したいインスタンスのチェック ボックスをオンにします。SiteMinder 保護を解除したいインスタンスのチェック ボックスをオフにします。

エージェント設定オブジェクト名

ポリシー サーバ上ですでに定義されている、エージェント設定オブジェクト (ACO) の名前を指定します。

デフォルト : `AgentObj`

高度な認証方式のダイアログ

以前に選択した Web サーバインスタンス用の高度な認証方式を指定します。

Domino Web エージェント ライブラリ ファイルの追加 (UNIX)

Domino Web エージェントを正常に動作させるには、libdominowebagent.so ライブラリ ファイルをフィルタ ファイルに追加します。Web エージェント ライブラリ ファイルは、リスト内の最初のファイルである必要があります。

次の手順に従ってください:

1. Lotus Notes を開きます。
2. [File] - [Database] - [Open] を選択します。
3. [Server] フィールドで、Web エージェントをインストールした Domino Server を選択します。
4. [Database] スクロール ボックスで、サーバのアドレス帳を選択します。
[Filename] フィールドで names.nsf が表示されることを確認します。
5. [Open] をクリックします。
サーバのアドレス帳が開きます。
6. 左ペインで、[Server] フォルダを展開し、[All Server Documents] アイコンをダブルクリックします。
7. サーバを選択し、[Edit Server] をクリックします。
Domino のサーバの管理コンソールが開きます。
8. [Internet Protocols] タブを選択します。
9. ウィンドウの DSAPI セクションで、[DSAPI filter file names] フィールドを検索し、Domino Web エージェント ファイルへのフルパスを入力します。Domino Web エージェント ファイルがリストの最初に表示されていることを確認します。以下に、ファイルのデフォルトの場所の例を示します。

```
web_agent_home¥bin¥libdominowebagent.so
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : /opt/ca/webagent

注: Domino Web エージェントが AIX オペレーティングシステムにインストールされている場合、DSAPI フィルタの Domino Web エージェントのファイル名は `libdominowebagent.a` です

10. [Save and Close] をクリックします。
11. Web サーバを再起動します。

UNIX または Linux でのエージェント環境スクリプトの取得

エージェントのインストールプログラムは以下のディレクトリで環境スクリプトを作成します。

`web_agent_home/ca_wa_env.sh`

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : `/opt/ca/webagent`

ほとんどの Apache ベースの Web サーバでは、以下のいずれのタスクを行った後にこのスクリプトを取得します。

- エージェント設定プログラムの実行。
- Web サーバの起動。

注: 同じシェル内で以前のタスクをすべて実行する場合は、スクリプトを **1 回**のみ取得します。

RedHat Linux に含まれる埋め込み Apache Web サーバの場合は、以下のいずれかのタスクを実行します。

- `httpd` サービスを開始する前にスクリプトを取得します。
- 以下のファイル内のスクリプトを取得します (毎回手動で開始する場合を除きます)。

`/etc/init.d/httpd`

UNIX または Linux でのライブラリパス変数の設定

エージェント設定プログラムを実行する前に UNIX または Linux システム上でライブラリパス変数を設定します。

以下の表は、さまざまな UNIX および Linux オペレーティング環境用のライブラリパス変数のリストを示しています。

| オペレーティングシステム | ライブラリパス変数の名前 |
|--------------|-----------------|
| AIX | LIBPATH |
| Linux | LD_LIBRARY_PATH |
| Solaris | LD_LIBRARY_PATH |

ライブラリパス変数の値を `web_agent_home/bin` ディレクトリに設定します。

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : `/opt/ca/webagent`

UNIX/Linux 上での Web エージェント設定プログラムの実行

エージェント設定用の情報を収集した後、エージェント設定プログラムを実行します。このプログラムは、コンピュータ上で実行される Web サーバ用のエージェント ランタイム インスタンスを作成します。

この設定プログラムは、選択するオプションに応じてウィザードまたはコンソールベースになります。ウィザードまたはコンソールモード内の設定プログラムを 1 回実行すると、プロパティファイルが作成されます。同じオペレーティング環境を持った他のコンピュータ上で無人設定を今後実行するためにプロパティファイルを使用します。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバで以下のディレクトリを開きます。

```
web_agent_home/install_config_info
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : /opt/ca/webagent

2. 以下のいずれかのメソッドを使用します。

- GUI ベースの設定については、手順 3 に移動します。
- コンソールベースの設定については、手順 5 に移動します。

3. 以下の実行可能ファイルを実行します。

```
ca-wa-config.bin
```

4. 手順 8 に進みます。

5. root 権限を使用してコマンドプロンプト ウィンドウを開きます。

6. 以前にリスト表示された実行可能ファイルに移動し、以下のスイッチで実行します。

```
-i console
```

7. 手順 8 に進みます。

8. 設定プログラムで示されるプロンプトに従います。エージェント設定ワークシートからリクエストされた値を提供します。

エージェント ランタイム インスタンスが Web サーバに対して作成されます。

UNIX/Linux 上でエージェントに対して無人またはサイレント インストールおよび設定プログラムを実行する

無人またはサイレント インストール オプションは、インストールおよび設定プロセスを自動化するのに役立ちます。同一の設定を持つ多くのエージェントを使用する大型の SiteMinder 環境がある場合、このメソッドによって時間を節約できます。

たとえば、環境内のエージェントが同じ Web サーババージョン、インストールディレクトリ、エージェント設定オブジェクト、およびポリシーサーバを使用すると仮定します。最初のインストールにはインストールウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムを使用します。その後、ウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムが作成した `.properties` ファイルを有するインストールプログラムを実行するために独自のスクリプトを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. 最初の Web サーバ上で以下のウィザードを実行します (表示されるおりの順序)。
 - a. SiteMinderWeb エージェント インストール ウィザード。
 - b. SiteMinderWeb エージェント設定ウィザード。
2. 最初の Web サーバで以下のファイルを見つけます。

```
web_agent_home/install_config_info/ca-wa-installer.properties
```

注: パスにスペースが含まれる場合は、引用符で囲んでください。

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : `/opt/ca/webagent`

3. 後続の Web サーバ上で以下の手順をそれぞれ実行します。

注: このプロセスを自動化するには、カスタマイズした独自のスクリプトを作成し、システム上でこれらのファイルを実行します。使用するスクリプト言語は任意です。

- a. 後続の Web サーバ上で一時ディレクトリを作成します。
- b. ウィザードを実行した (手順 1 および 2) Web サーバから後続の Web サーバ上の一時ディレクトリに以下のファイルをコピーします。

- SiteMinderWeb エージェント インストール実行可能ファイル。
 - SiteMinderca-wa-installer properties ファイル。
 - c. 一時ディレクトリ内でルート権限を使用してコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
 - d. 以下のコマンドを実行します。

```
agent_executable.bin -f properties_file -i silent
```

Web サーバに SiteMinder エージェントがサイレントにインストールおよび設定されます。
 - e. (オプション) Web サーバから一時ディレクトリを削除します。
4. ca-wa-installer.properties ファイルの設定で指定される構成を使用する SiteMinder 環境内の各追加の Web サーバに対して手順 3 を繰り返します。

HTML フォーム認証を有効にするための別名設定を設定

Domino Web エージェントを設定して HTML フォーム認証方式をサポートするには、以下のタスクを実行します。

1. Domino ドキュメント ルート (¥domino¥html¥) ディレクトリに「siteminderagent」という名前のサブディレクトリを作成します。
2. 手順 1 に作成した siteminderagent ディレクトリに agent_home¥samples のサブディレクトリをすべてコピーします。

agent_home

SiteMinder Web エージェントのインストールパスを指定します。

X.509 クライアント証明書および HTML フォーム認証方式をサポートするために、手順 1 で作成した siteminderagent ディレクトリに「certoptional」という名前のディレクトリを追加で作成し、さらに、そこに agent_home¥samples のすべてのサブディレクトリをコピーします。

第 4 章: ダイナミックポリシー サーバクラスタ

旧バージョンの SiteMinder エージェントは、ポリシー サーバがクラスタに追加されたり、クラスタから削除されたりした時期を自動的に検出しませんでした。エージェントは、Web サーバが再起動された後にしか変更を認識しませんでした。

SiteMinder12.52 SP1 は動的ポリシー サーバクラスタをサポートします。動的ポリシー サーバクラスタを有効にすると、既存クラスタに対するポリシー サーバの追加または削除がエージェントによって自動検出されません。

たとえば、エージェントが以下のポリシー サーバのクラスタに接続しているとします。

- 192.168.2.100
- 192.168.2.101
- 192.168.2.103
- 192.168.2.104

オペレーティング システムをアップグレードするためにサーバ 192.168.2.103 を削除することを後で決めたとします。この状況では、動的なポリシー サーバクラスタを有効にすると、エージェントはクラスタのメンバシップの変更を再起動なしに認識することができます。

以下のタスクのいずれかを実行する場合は、Web サーバを再起動します。

- 既存のポリシー サーバの設定を変更します (設定ウィザードを使用)。
- ポリシー サーバ クラスタの作成
- ポリシー サーバ クラスタの削除
- 以下のいずれかのポリシー サーバ設定値の変更：
 - EnableFailOver
 - MaxSocketsPerPort
 - MinSocketsPerPort
 - NewSocketStep
 - RequestTimeout

ダイナミックポリシー サーバクラスタへの Web エージェントの接続

Web サーバ上の SmHost.conf ファイルを変更することで、1つ以上のダイナミックポリシーサーバクラスタに Web エージェントを接続することができます。

次の手順に従ってください：

1. テキストエディタで以下のファイルを開きます。

```
web_agent_home¥config¥SmHost.conf
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (Windows32 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent

デフォルト (Windows64 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent¥win64

デフォルト (64 ビット システム [Wow64] 上で作動する Windows32 ビット アプリケーション) : C:¥Program Files (x86)¥webagent¥win32

2. 以下のタスクのいずれかを実行します。

この Web エージェントがポリシーサーバの動的なクラスタに一度も接続されたことがない場合は、以下のテキストを使用して (ファイル内の任意の場所に) 行を作成します。

```
enableDynamicHCO="YES"
```

- この Web エージェントが以前にポリシーサーバのダイナミッククラスタに接続されていた場合は、既存の enableDynamicHCO パラメータの値を「NO」から「YES」に変更します。

1. SmHost.conf ファイルを保存し、テキストエディタを閉じます。
2. Web サーバを再起動します。

Web エージェントはダイナミックポリシーサーバクラスタに接続されました。

第 5 章: Web エージェントの起動と停止

Web エージェントの有効化

エージェントのパラメータを設定して、エージェントが Web サーバ上のリソースを保護できるようにします。

注: SiteMinder ポリシー サーバにポリシーも定義するまでは、リソースは保護されません。

次の手順に従ってください:

1. WebAgent.conf ファイルをテキスト エディタで開きます。

注: 64 ビット オペレーティング環境にインストールされた IIS 用エージェントには、2 つの WebAgent.conf ファイルがあります。1 つのファイルは 32 ビット Windows アプリケーション用です。もう 1 つのファイルは 64 ビット Windows アプリケーション用です。IIS 用エージェントを起動または停止する場合は、*両方*の WebAgent.conf ファイルを変更します。

2. EnableWebAgent パラメータの値を **yes** に変更します。
3. WebAgent.conf ファイルを保存して閉じます。
4. Web サーバ (サーバが実行されるコンピュータではなく Web サーバ自体) を再起動します。

Web エージェントが有効になります。

Web エージェントの無効化

Web エージェントによる Web サーバ上のリソースの保護を停止する場合は、Web エージェントを無効にします。

次の手順に従ってください:

1. WebAgent.conf ファイルをテキスト エディタで開きます。

注: 64 ビット オペレーティング環境にインストールされた IIS 用エージェントには、2 つの WebAgent.conf ファイルがあります。1 つのファイルは 32 ビット Windows アプリケーション用です。もう 1 つのファイルは 64 ビット Windows アプリケーション用です。IIS 用エージェントを起動または停止する場合は、*両方*の WebAgent.conf ファイルを変更します。

2. EnableWebAgent パラメータの値を no に変更します。
3. WebAgent.conf ファイルを保存して閉じます。
4. Web サーバ (サーバが実行されるコンピュータではなく Web サーバ自体) を再起動します。

Web エージェントが無効になります。

第 6 章: Web エージェントを 12.52 SP1 にアップグレードする

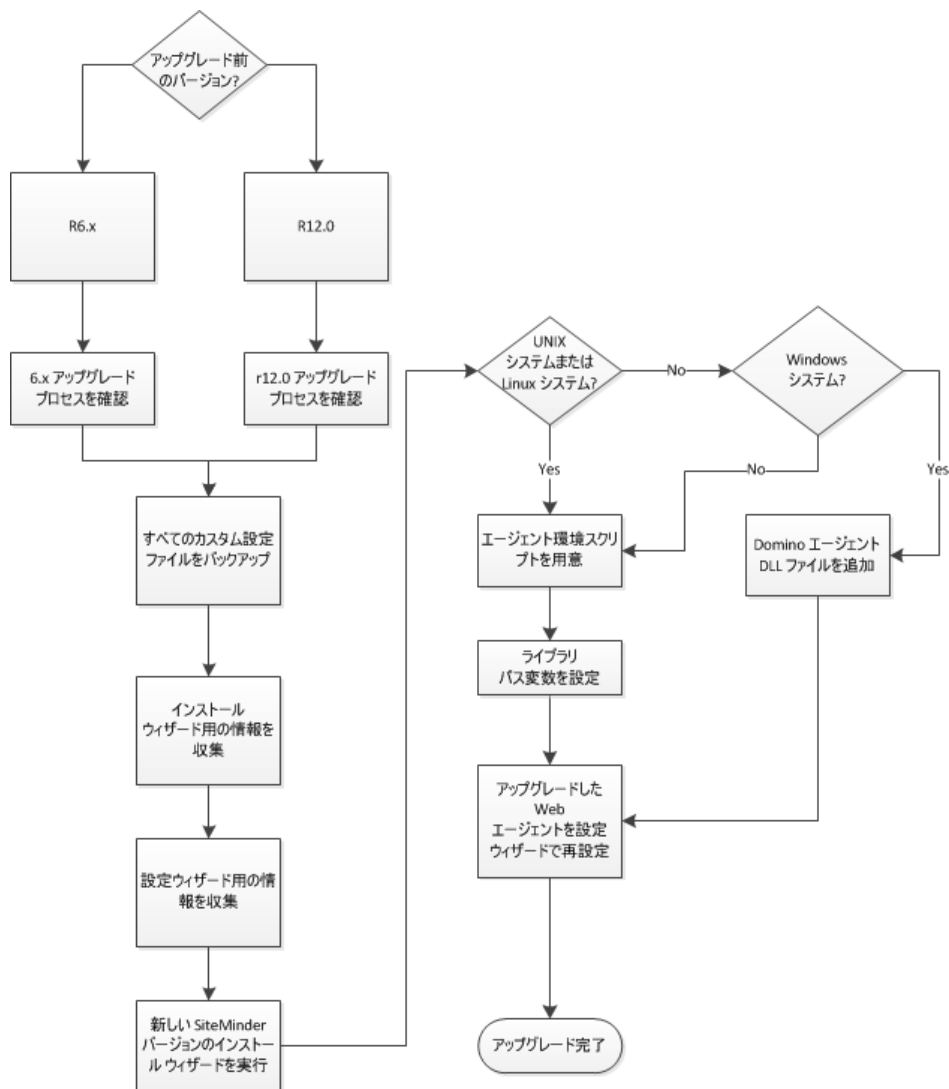
このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Domino 用のエージェントアップグレードロードマップ \(P. 52\)](#)

[Domino 用のエージェントをアップグレードする方法 \(P. 53\)](#)

Domino 用のエージェント アップグレード ロードマップ

以下の図は、Domino 用のエージェントを r12.5 にアップグレードするのに必要な別個の手順を示します。



Domino 用のエージェントをアップグレードする方法

SiteMinder エージェントのアップグレードはいくつかの別個の手順を必要とします。エージェントのアップグレードの準備をするには、次の手順に従ってください：

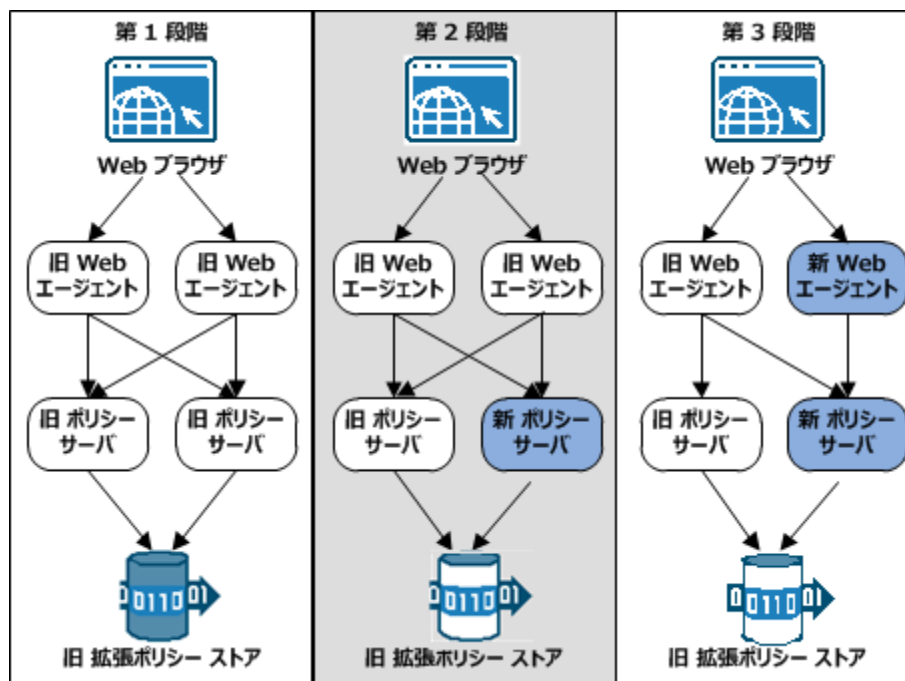
1. 以下の図のいずれかを使用して、エージェントのアップグレードで適切な SiteMinder アップグレード手順を使用していることを確認します。
 - r6.x からのアップグレード処理。
 - r12.0 からのアップグレード処理。
2. Domino サーバ上で任意のカスタマイズされた SiteMinder ファイルのバックアップコピーを作成します。エージェントのインストールまたは設定後にカスタマイズできるファイルには以下のファイルが含まれます。
 - LocalConfig.conf
 - WebAgent.conf
3. 以下の SiteMinder プログラムの情報を収集します。
 - エージェント インストール ウィザード。
 - エージェント設定ウィザード。
4. エージェントをアップグレードするには以下のいずれかの手順を使用します。
 - [Windows オペレーティング環境用のインストール ウィザードを実行する \(P. 55\)](#)。
 - [UNIX/Linux オペレーティング環境用のインストール ウィザードを実行する \(P. 57\)](#)。
5. 以下のリストからオペレーティング環境用の適切な手順を実行します。
 - Windows オペレーティング環境のアップグレードについては、[Domino Web エージェント DLL ファイルを追加する \(P. 58\)](#)。
 - UNIX/Linux オペレーティング環境のアップグレードについては、以下のすべての手順を実行します。
 - a. [Web エージェント Domino ライブラリ ファイルを追加する \(P. 60\)](#)。
 - b. [エージェント環境スクリプトを用意する \(P. 61\)](#)。
 - c. [ライブラリ パス変数を設定する \(P. 62\)](#)。

6. アップグレードされたエージェントを設定するために以下の手順のいずれかを実行します。
 - [Windows オペレーティング環境上のアップグレードされたエージェントを設定する \(P. 63\)](#)。
 - [UNIX/Linux オペレーティング環境上のアップグレードされたエージェントを設定する \(P. 64\)](#)。

SiteMinder r6.x からのアップグレード処理

以下の例に示されるように、r6.x から 12.52 SP1 へのエージェントアップグレードが SiteMinder アップグレードプロセスの手順 3 で発生します。

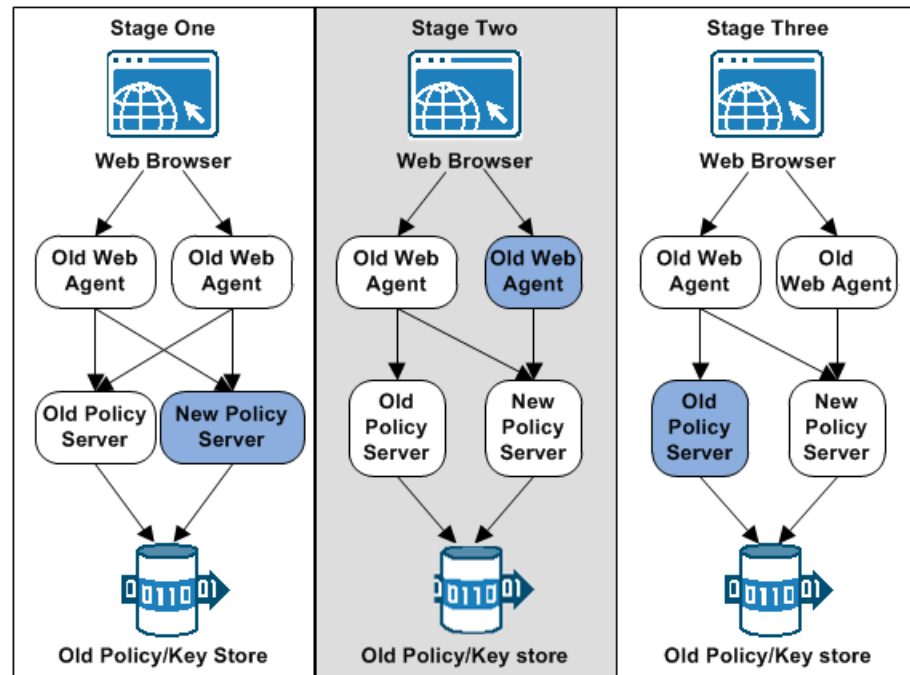
図 1: r6 SP5 移行。第 1 段階～第 3 段階。



SiteMinder r12.0 からのアップグレード処理

以下の例に示されるように、r12.x から 12.52 SP1 へのエージェントアップグレードが SiteMinder アップグレードプロセスの手順 2 で発生します。

図 2: r12.x 移行の概要。



Windows 上でエージェントをアップグレードするためにインストール ウィザードを実行する

エージェントのインストールプログラムは Windows オペレーティング環境を使用して、一度に 1 台のコンピュータにエージェントをインストールします。このインストールプログラムはウィザードまたはコンソールモードで実行できます。ウィザードおよびコンソールベースのインストールプログラムは、同じ設定の無人またはサイレントメソッドを使用して、後続のインストールおよび設定のための .properties ファイルも作成します。

たとえば、環境内のエージェントが同じ **Web** サーババージョン、インストールディレクトリ、エージェント設定オブジェクト、およびポリシーサーバを使用すると仮定します。最初のインストールにはインストールウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムを使用します。その後、ウィザードまたはコンソールベースのインストールプログラムが作成した **.properties** ファイルを有するインストールプログラムを実行するために独自のスクリプトを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. **Web** サーバ上の一時ディレクトリに **Web** エージェントインストール実行可能ファイルをコピーします。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - ウィザードベースのインストールでは、インストール実行可能ファイルを右クリックし、次に、[管理者として実行] を選択します。
 - コンソールベースのインストールでは、コマンドライン ウィンドウを開き、以下の例に示すとおり実行可能ファイルを実行します。

```
executable_file_name.exe -i console
```

3. 事前に収集した情報を使用してインストールを完了します。

UNIX/Linux 上でエージェントをアップグレードするためにインストール ウィザードを実行する

SiteMinder エージェント用のインストール プログラムは、UNIX または Linux オペレーティング環境を使用して、エージェントを一度に 1 台のコンピュータにインストールします。このインストール プログラムはウィザードまたはコンソール モードで実行できます。ウィザードおよびコンソールベースのインストール プログラムは、同じ設定の無人またはサイレント メソッドを使用して、後続のインストールおよび設定に対する `.properties` ファイルも作成します。

たとえば、環境内のエージェントが同じ Web サーババージョン、インストールディレクトリ、エージェント設定オブジェクト、およびポリシーサーバを使用すると仮定します。最初のインストールにはインストール ウィザードまたはコンソールベースのインストール プログラムを使用します。その後、ウィザードまたはコンソールベースのインストール プログラムが作成した `.properties` ファイルを有するインストール プログラムを実行するために独自のスクリプトを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバ上の一時ディレクトリに SiteMinder エージェント インストール実行可能ファイルをコピーします。
2. root ユーザとしてログインします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - ウィザードベースのインストールについては、インストール実行可能ファイルを実行します。
 - コンソールベースのインストールでは、コマンドライン ウィンドウを開いて実行可能ファイルを以下の例で示されるとおりに実行します。

```
executable_file_name.exe -i console
```

4. インストール プログラムを完了するためにエージェント インストールワークシートからの情報を使用します。

Windows 上のアップグレードされたエージェントへ Web エージェント Domino DLL ファイルの追加

Domino Web エージェントが正常に動作するには、DOMINOWebAgent.dll ファイルをフィルタ DLL に追加します。Web エージェント DLL は、リスト内の最初の DLL である必要があります。

次の手順に従ってください:

1. Lotus Notes を開きます。
2. [File] - [Database] - [Open] を選択します。
3. [Server] フィールドで、Web エージェントをインストールした Domino Server を選択します。
4. [Database] スクロールボックスで、サーバのアドレス帳を選択します。
[Filename] フィールドで names.nsf が表示されることを確認します。
5. [開く] をクリックします。
6. 左ペインで、[Server] フォルダを展開し、[All Server Documents] アイコンをダブルクリックします。
7. サーバを選択し、[Edit Server] をクリックします。
8. [Internet Protocols] タブを選択します。

9. ウィンドウの DSAPI セクションで、[DSAPI filter file names] フィールドを検索し、Domino Web エージェント DLL への完全パスを入力します。Domino Web エージェント DLL がリストの最初に表示されることを確認します。この DLL ファイルのデフォルトの場所は以下の例で示すとおりです。

`web_agent_home¥bin¥DOMINOWebAgent.dll`

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (Windows32 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent

デフォルト (Windows64 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent¥win64

デフォルト (64 ビット システム [Wow64] 上で作動する Windows32 ビット アプリケーション) : C:¥Program Files (x86)¥webagent¥win32

10. [Save and Close] をクリックします。
11. Web サーバを再起動します。場合によって、再起動が必要になることがあります。

UNIX/Linux 上のアップグレードされたエージェントへ Web エージェント Domino ライブラリ ファイルの追加

Domino Web エージェントを正常に動作させるには、libdominowebagent.so ライブラリ ファイルをフィルタ ファイルに追加します。Web エージェント ライブラリ ファイルは、リスト内の最初のファイルである必要があります。

次の手順に従ってください:

1. Lotus Notes を開きます。
2. [File] - [Database] - [Open] を選択します。
3. [Server] フィールドで、Web エージェントをインストールした Domino Server を選択します。
4. [Database] スクロール ボックスで、サーバのアドレス帳を選択します。
[Filename] フィールドで names.nsf が表示されることを確認します。
5. [Open] をクリックします。
サーバのアドレス帳が開きます。
6. 左ペインで、[Server] フォルダを展開し、[All Server Documents] アイコンをダブルクリックします。
7. サーバを選択し、[Edit Server] をクリックします。
Domino のサーバの管理コンソールが開きます。
8. [Internet Protocols] タブを選択します。
9. ウィンドウの DSAPI セクションで、[DSAPI filter file names] フィールドを検索し、Domino Web エージェント ファイルへのフルパスを入力します。Domino Web エージェント ファイルがリストの最初に表示されていることを確認します。以下に、ファイルのデフォルトの場所の例を示します。

```
web_agent_home¥bin¥libdominowebagent.so
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : /opt/ca/webagent

注: Domino Web エージェントが AIX オペレーティングシステムにインストールされている場合、DSAPI フィルタの Domino Web エージェントのファイル名は `libdominowebagent.a` です

10. [Save and Close] をクリックします。
11. Web サーバを再起動します。

UNIX/Linux のアップグレードの後にエージェント環境スクリプトを取得

エージェントのインストールプログラムは以下のディレクトリで環境スクリプトを作成します。

`web_agent_home/ca_wa_env.sh`

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : `/opt/ca/webagent`

ほとんどの Apache ベースの Web サーバでは、以下のいずれのタスクを行った後にこのスクリプトを取得します。

- エージェント設定プログラムの実行。
- Web サーバの起動。

注: 同じシェル内で以前のタスクをすべて実行する場合は、スクリプトを **1 回**のみ取得します。

RedHat Linux に含まれる埋め込み Apache Web サーバの場合は、以下のいずれかのタスクを実行します。

- `httpd` サービスを開始する前にスクリプトを取得します。
- 以下のファイル内のスクリプトを取得します (毎回手動で開始する場合を除きます)。

`/etc/init.d/httpd`

UNIX/Linux 上でアップグレードしたエージェントを設定する前にライブラリパス変数を設定する

エージェント設定プログラムを実行する前に UNIX または Linux システム上でライブラリパス変数を設定します。

以下の表は、さまざまな UNIX および Linux オペレーティング環境用のライブラリパス変数のリストを示しています。

| オペレーティングシステム | ライブラリパス変数の名前 |
|--------------|-----------------|
| AIX | LIBPATH |
| Linux | LD_LIBRARY_PATH |
| Solaris | LD_LIBRARY_PATH |

ライブラリパス変数の値を *web_agent_home/bin* ディレクトリに設定します。

web_agent_home

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : /opt/ca/webagent

Windows 上でアップグレードしたエージェントを設定する

エージェント設定用の情報を収集した後、エージェント設定プログラムを実行します。このプログラムは、コンピュータ上で実行される Web サーバ用のエージェント ランタイム インスタンスを作成します。

この設定プログラムは、選択するオプションに応じてウィザードまたはコンソールベースになります。ウィザードまたはコンソールモード内の設定プログラムを 1 回実行すると、プロパティファイルが作成されます。同じオペレーティング環境を持った他のコンピュータ上で無人設定を今後実行するためにプロパティファイルを使用します。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバで以下のディレクトリを開きます。

```
web_agent_home¥install_config_info
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (Windows32 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent

デフォルト (Windows64 ビット インストールのみ) : <アクセスパス>¥webagent¥win64

デフォルト (64 ビット システム [Wow64] 上で作動する Windows32 ビット アプリケーション) : C:¥Program Files (x86)¥webagent¥win32

2. 以下のいずれかのメソッドを使用します。
 - GUI ベースの設定については、手順 3 に移動します。
 - コンソールベースの設定については、手順 5 に移動します。
3. 以下の実行可能ファイルを右クリックし、次に、[管理者として実行]を選択します。

```
ca-wa-config.exe
```

4. 手順 8 に進みます。
5. 管理者権限を使用してコマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
6. 以前にリスト表示された実行可能ファイルに移動し、以下のスイッチで実行します。

```
-i console
```

- 手順 8 に進みます。
- 設定プログラムで示されるプロンプトに従います。エージェント設定ワークシートからリクエストされた値を提供します。

エージェントランタイム インスタンスが Web サーバに対して作成されます。

UNIX/Linux 上でアップグレードしたエージェントを設定する

エージェント設定用の情報を収集した後、エージェント設定プログラムを実行します。このプログラムは、コンピュータ上で実行される Web サーバ用のエージェントランタイム インスタンスを作成します。

この設定プログラムは、選択するオプションに応じてウィザードまたはコンソールベースになります。ウィザードまたはコンソールモード内の設定プログラムを 1 回実行すると、プロパティファイルが作成されます。同じオペレーティング環境を持った他のコンピュータ上で無人設定を今後実行するためにプロパティファイルを使用します。

次の手順に従ってください:

- Web サーバで以下のディレクトリを開きます。

```
web_agent_home/install_config_info
```

```
web_agent_home
```

SiteMinder エージェントがインストールされているディレクトリを示します。

デフォルト (UNIX/Linux インストール) : /opt/ca/webagent

- 以下のいずれかのメソッドを使用します。
 - GUI ベースの設定については、手順 3 に移動します。
 - コンソールベースの設定については、手順 5 に移動します。

- 以下の実行可能ファイルを実行します。

```
ca-wa-config.bin
```

- 手順 8 に進みます。
- root 権限を使用してコマンドプロンプト ウィンドウを開きます。

6. 以前にリスト表示された実行可能ファイルに移動し、以下のスイッチで実行します。

`-i console`

7. 手順 8 に進みます。
8. 設定プログラムで示されるプロンプトに従います。エージェント設定ワークシートからリクエストされた値を提供します。

エージェントランタイムインスタンスが Web サーバに対して作成されます。

第 7 章: Web エージェントのアンインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Web エージェントのアンインストールに関する注意事項 \(P. 67\)](#)

[Windows オペレーティング環境からの Web エージェントのアンインストール \(P. 68\)](#)

[UNIX からの Domino エージェントのアンインストール \(P. 70\)](#)

Web エージェントのアンインストールに関する注意事項

以下の点に注意してください。

- インストールされたすべての Web サーバのすべての Web エージェントがアンインストールされます。
- パスワードサービスおよびフォーム ディレクトリ (`pw_default`、`jpw_default`、`samples_default`) が削除されます。ただし、これらのディレクトリにはカスタマイズされたファイルが含まれている場合があるため、これらのディレクトリのデフォルト以外のコピー (`pw`、`jpw`、`サンプル`) は削除されません。

Windows オペレーティング環境からの Web エージェントのアンインストール

Windows オペレーティング環境から SiteMinderWeb エージェントをアンインストールする前に、レジストリ設定および Web エージェント構成設定のバックアップ コピーを作成することを考慮してください。

以下の点に注意してください。

- インストールされたすべての Web サーバのすべての Web エージェントがアンインストールされます。
- パスワードサービスおよびフォーム ディレクトリ (`pw_default`、`jpw_default`、`samples_default`) が削除されます。ただし、これらのディレクトリにはカスタマイズされたファイルが含まれている場合があるため、これらのディレクトリのデフォルト以外のコピー (`pw`、`jpw`、サンプル) は削除されません。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバを停止します。
2. 以下のいずれかの手順を使用して、サーバ上のエージェントの設定を削除します。
 - ウィザードを使用して Web エージェントを設定解除するには、手順 3 に進みます。
 - コンソールベースのプログラムを使用してエージェントを設定解除するには、手順 6 に進みます。
3. [スタート] - [すべてのプログラム] - [CA] - [CA SiteMinder®] をクリックします。

Web エージェント設定ウィザードへのショートカットが表示されません。

4. ショートカットを右クリックし、[管理者として実行]を選択します。

重要: Windows Server 2008 上でこのウィザードを実行している場合は、実行ファイルを管理者権限で実行します。管理者としてシステムにログインしている場合でも、これらの権限を使用します。詳細については、お使いの CA SiteMinder® コンポーネントの「リリースノート」を参照してください。

Web エージェント設定ウィザードが開始します。

5. Web サーバ上で設定されたエージェント インスタンスのチェックボックスをオフにし、ウィザードを完了します。
6. root 権限を使用してコマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
7. ca-wa-config.exe ファイルに移動し、以下のスイッチで実行します。
-i console
8. Web サーバ上で設定されたエージェント インスタンスを設定解除します。設定プログラムが完了するのを待ってから、手順 9 に進みます。
9. 以下のいずれかの手順を選択します。
 - ウィザードを使用して Web エージェントを削除するには、手順 10 に進みます。
 - コンソールベースのプログラムを使用して Web エージェントを削除するには、手順 15 に進みます。
10. [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムと機能] の順にクリックします。
インストールされたプログラムのリストが表示されます。
11. [SiteMinder Web エージェント バージョン番号] をクリックします。
12. [アンインストール/変更] をクリックします。
アンインストール ウィザードが表示されます。
13. [SiteMinder Web エージェントのアンインストール] ダイアログボックスの情報を確認し、次に、[アンインストール] をクリックします。
ウィザードが Web エージェントを削除します。
14. ウィザードが完了するのを待ってから、手順 17 に進みます。
15. コマンドライン ウィンドウを開きます。
16. 以下のディレクトリに移動します。

`web_agent_home`

`web_agent_home`

SiteMinder エージェントが Web サーバにインストールされるディレクトリを示します。

デフォルト (SiteMinder IIS Web エージェントの Windows 32 ビットインストールのみ) : `C:\Program Files\CA\webagent`

デフォルト (Windows 64 ビットインストール[IIS 用 SiteMinder Web エージェントのみ]) : `C:\Program Files\CA\webagent\win64`

デフォルト (64 ビット システムで稼働している Windows 32 ビット アプリケーション [IIS 用 SiteMinder Web エージェントを持つ Wow64 のみ]) : C:\Program Files (x86)\webagent\win32

17. 以下のコマンドを実行します。

```
ca-wa-uninstall.cmd -i console
```

18. アンインストールプログラムが完了するのを待ってから、手順 19 に進みます。

19. Web サーバを開始します。

重要: Web エージェントをアンインストールした後に次の場所から ZeroG レジストリ ファイルを削除します : C:\Program Files\ZeroG Registry\com.zerog.registry.xml

UNIX からの Domino エージェントのアンインストール

これらの手順はエージェントの GUI およびコンソール モードを削除するためのものです。

以下の点に注意してください。

- インストールされたすべての Web サーバのすべての Web エージェントがアンインストールされます。
- パスワード サービスおよびフォーム ディレクトリ (pw_default、jpw_default、samples_default) が削除されます。ただし、これらのディレクトリにはカスタマイズされたファイルが含まれている場合があるため、これらのディレクトリのデフォルト以外のコピー (pw、jpw、サンプル) は削除されません。

注: 64 ビット SUSE Linux 10 システムから Web エージェントを削除するには、追加の準備が必要になります。

2つのモードの手順は同じですが、コンソールモードについては以下に示す例外があります。

- 対応する番号を入力して、オプションを選択します。
- 各手順の後に、Enter キーを押してプロセスを続行します。プロンプトにより、順を追ってプロセスをガイドします。

注: アンインストールする前に、バックアップとしてエージェント構成設定をコピーすることをお勧めします。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバを停止します。
2. UNIX システムにログインします。
3. 削除するエージェントの設定を削除するために、設定ウィザードを実行します。
4. Web エージェントがインストールされているディレクトリへ移動します: `web_agent_home/install_config_info/ca-wa-uninstall`
5. 必要に応じて、「`chmod +x uninstall`」を入力することにより、アンインストールプログラムの実行権限があることを確認します。
6. コンソール ウィンドウから、以下のコマンドのうちの 1 つを入力します。
 - GUI モード: `./uninstall`
 - コンソール モード: `./uninstall -i console`アンインストールプログラムが起動します。
7. ダイアログ ボックスの情報を読んで、Web エージェントの削除を確認し、[アンインストール] をクリックします。Web エージェントはシステムから削除されます。
8. [終了] をクリックして、アンインストールプログラムを終了します。
9. ホーム ディレクトリに変更します (現在のディレクトリは削除されています)。
10. Web サーバを再起動します。

第 8 章: トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Domino Web エージェントが有効になっていないのに Web サーバが開始する \(P. 73\)](#)

[ローカル設定モードの使用時に Domino エージェントが初期化できない \(P. 74\)](#)

[英語以外の入力文字にジャンク文字が含まれる \(P. 74\)](#)

Domino Web エージェントが有効になっていないのに Web サーバが開始する

Domino で有効

問題の状況:

Web サーバが開始したのに Domino Web エージェントが無効です。

解決方法:

以下の手順を実行します。

- WebAgent.conf ファイルで、EnableWebAgent パラメータを [はい] に設定します。
- DOMINOWebAgent.dll ファイルがフィルタ DLL に追加されたことを確認します。Web エージェント DLL は、リスト内の最初の DLL である必要があります。

詳細情報

[Domino Web エージェント DLL の追加 \(Windows\) \(P. 27\)](#)

ローカル設定モードの使用時に Domino エージェントが初期化できない

Domino で有効

問題の状況:

Domino エージェントはローカル設定モードで初期化することができません。

解決方法:

WebAgent.conf ファイルへのフルパスが notes.ini ファイルに追加されていることを確認します。

英語以外の入力文字にジャンク文字が含まれる

UNIX/Linux 上で有効

問題の状況:

英語以外の入力文字の一部がコンソール ウィンドウに正しく表示されません。 -

解決方法:

コンソール ウィンドウのターミナルの設定を確認します。コンソールが入力文字の高位 (8) ビットをクリアしないことを確認します。以下のコマンドを実行します。

```
stty -istrip
```

付録 A: ワークシート

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[エージェントインストールワークシート \(P. 75\)](#)

[Domino 用の Web エージェント設定ワークシート \(P. 75\)](#)

エージェント インストール ワークシート

以下の表を使用して、エージェント インストール プログラムが必要とする情報を記録します。

| 必要な情報 | 使用する値 |
|--------------|-------|
| インストールディレクトリ | |

Domino 用の Web エージェント設定ワークシート

以下のテーブルを使用して、Domino サーバ用にエージェント設定プログラムが必要とする情報を記録します。

| 必要な情報 | 使用する値 |
|--------------------|-------|
| ホスト登録 (はい/いいえ) | |
| 管理者ユーザ名 | |
| 管理者パスワード | |
| 共有秘密キーのロールオーバーの有効化 | |
| トラステッドホスト名 | |
| ホスト設定オブジェクト | |
| IP アドレス | |
| FIPS モード設定 | |
| SmHost.conf ファイル名 | |

| 必要な情報 | 使用する値 |
|---------------------|-------|
| SmHost.conf ファイルの場所 | |
| サーバの選択 | |
| iNotes ファイルの場所 | |
| エージェント設定オブジェクト名 | |